

# 多血小板血漿（PRP）注入療法の同意書

➤ 自己多血小板血漿（PRP）とは自己血から抽出した高濃度の血小板を患部に注入することで、自己組織の修復を促す最新の再生医療の方法です。

➤ 他療法との比較

治療法	内容	効果	危険度
ステロイド	局所注射	即効性である。	抗炎症作用による効能のため急性時には適するが慢性時においてはステロイドによる連用が組織の脆弱性を生じ適応外である。
	全身投与 内服、静脈注射		
多血小板血漿（PRP）療法	局所注射	組織修復によるため効果に期間を要する。	抗炎症作用での効用ではなく組織修復による効果であるため、慢性疾患に対して適応がある。

➤ メリットとデメリット

- ・メリット 自身の血液から精製する成分のため、アレルギー反応、合併症の危険性の心配が無い
- ・デメリット 注入部が腫れや自発痛が発症する可能性がある（1～2日ほどで消失します）  
多血小板血漿（PRP）療法の効果は注入後2週間～2ヶ月後にあらわれます。  
持続性は約2年なので定期的に受ける必要がある。

➤ 多血小板血漿（PRP）療法の禁忌

- ①妊婦の方
- ②心臓病・脳梗塞の既往のある方
- ③肝臓疾患のお持ちの方
- ④血液が固まりにくくなる薬を内服されている方

➤ 現時点では保険外診療とされているため、自由診療となり、自己負担金が発生します。費用は、1回あたり20,000円（税抜き）となります。患部の範囲により1回に使用する精製キットの本数が増えることがあります。その場合、1本につき8,000円（税抜き）追加となります。

➤ 多血小板血漿（PRP）注入療法の撤回期間は治療直前（組織培養用試料調整容器開封直前）までと致します。

この再生医療を受けることを拒否することは任意です。

治療撤回による不利益な取扱は一切致しません。

- 治療を受ける際に知り得た情報等は、当医院の個人情報保護ガイドラインに基づき厳密な管理を行い、譲渡、開示等は致しません。

医療法人 愛恵会 愛光整形外科 院長 殿

私は、上記の診療行為について、必要理由、方法、期待しうる効果、危険性及び合併症、代替手段、実施しない場合の予後等について十分な説明を受け、納得しましたので実施に同意します。なお、上記の診療行為中予期しない生命にかかわるような緊急状況が発生した場合は、医師が必要と判断した処置を行うことも同意します。

年 月 日

患者氏名 \_\_\_\_\_ 印

住 所 : \_\_\_\_\_

\* 親族等氏名 \_\_\_\_\_ 印

\* (患者との続柄 : ) \_\_\_\_\_

\* 住 所 : \_\_\_\_\_

(\*患者本人が未成年者、又は親族等の同意が必要な場合に記載して下さい。)